

# 予防接種事故に係る臨時記者会見 記録

平成 29 年 8 月 23 日(水)

午後 8 時～午後 8 時 55 分

## 発表案件

市長：

本日、あいかわ開発総合センターで実施いたしました2種混合ワクチンの予防接種におきまして12名の対象児童に対し、誤ってB型肝炎ワクチンを接種してしまうという事故がありました。これはワクチンの搬出、接種準備等の段階で該当ワクチンであるかいなかの確認不足により発生したものであります。

本来あってはならないことであります。このたびのことで該当児童ならびに保護者の皆様には大変なご心配ご迷惑をお掛けしましたことを心よりお詫び申し上げます。本当に申し訳ございませんでした。

この件の詳細につきましては市民福祉部長より説明させていただきますので、よろしく願いいたします。

市民福祉部長：

それでは、経緯の説明をさせていただきます。

本日1時からあいかわ開発総合センターで2種混合ワクチンの予防接種を行っております。そのワクチンを8月22日午前8時20分に佐渡市役所本庁舎から相川支所へワクチン搬入のために担当の保健師が行いました。この本庁舎にある冷蔵庫には2種混合ワクチンとB型肝炎ワクチンが段違いで入ってございました。この時、本来2種混合ワクチンを受け渡し搬入すべきだったところ、B型肝炎の5本パッケージ2組、計10本のワクチンを搬入してしまったということでございます。この確認につきましては相川支所の保健師と本庁健康推進室の保健師2名で行いましたが、完全な思い込みによりまして確認が不足しておりました。本日の11時30分にあいかわ開発総合センターの会場準備を行いました。その時に相川支所の冷蔵庫の中から相川支所の担当保健師がワクチンの管理台帳に記入をしております。それで冷蔵庫から取り出して、会場に搬入してございますが、その際にも思い込みにより確認が不足してございました。午後1時に看護師がワクチンを注射器に吸い上げる際も、看護師は渡されたものが正しいものと思い込み、この際も確認を怠っております。午後1時20分に医師が接種を開始して

おります。会場には定量でありますと25名分のワクチンとなりますので、この日の接種者は27名会場に到着しておりましたので、2名分不足するという判断から午後1時30分に相川支所の保健師が相川支所へワクチンを取りに行き、この取り出す際にワクチンの間違いというものに気づいております。午後1時40分に保健師がこの誤りに気づきましたので、あいかわ開発総合センターの方へ向かいまして、接種中断させております。しかしながら既に12名の方が接種を終了し、13人目の方が診察を受けておりましたので、接種はこの方からは行われていませんでした。B型肝炎ワクチンにつきましては平成28年の10月に0歳児の接種ということが義務付けられておりますので、本来保健師が二種混合ワクチンとB型肝炎ワクチンは、担当医師から同時接種が可能なものということでお待ちの保護者の方に説明を行い、子ども若者課に確認をし、接種を行う、継続するという確認をとりまして、このため二種混合ワクチンを本庁舎の方から健康推進室の担当者が会場へ運び接種を再開してございます。で、この説明をしましたが午後1時45分に12名の児童の保護者に事情を説明したところ6名の児童の保護者が同時接種と言いますか、B型肝炎のワクチンと二種混合ワクチンの接種を希望されましたので、接種を行ってございます。本庁舎から運んだもので、この後新しいワクチンで二種混合ワクチンを接種しておるということで、保護者の方にも母子健康手帳と薬液のパッケージを確認してもらい、接種を再開しています。

当然B型肝炎の接種を受けてしまった家族の方は非常に健康被害等のご心配があるというようなことであります。接種した医師、及び小児科の先生に健康被害についての照会をしましたが、同時接種が認められているワクチンであること、今回接種した量が少量であった、というようなことで健康被害はないだろうと言われておることから、接種は再開しましたが、打たれた方のご家族並びご本人、精神的な不安もありましようし、それを解消していただくために、全対象者に佐渡総合病院に受診をお願い致しました。医師の受診にはその際、健康推進室の保健師が同席をしておりまして、打たれた12名のうち、再診の際等、受診を希望した10名の方が受診をされております。その結果、一応異常は認められなかった、ということでございます。そういう経緯でございます。本当に申し訳ございませんでした。

記者：

ワクチン接種っていうのは非常にその神経を使わなきゃならないものだと思うんだけどそれを段違いで間違っって持ってくっていう、その日頃のマニュアルが全然なっていないんじゃないですか？

市民福祉部長：

はい、ご指摘の通り本当に今回非常にあってはならないミスでありました。2名の保健師で確認しながらやっていくものでありますが、本人たちに事情を確認させていただきました。その際ですね、やはりあの確実に、有効期限というものばかりに気がっていたということです。ですので、有効期限切れのものではないか、ということばかり確認をしておって、今回その辺りが十分な確認がされなかったということでありました。非常に反省もしておりますし、今後このようなことのないように私どもが再度注意喚起し、確実な確認を行うように指導をしたいと思えます。

記者：

ちょっと数量人数の確認なんですけど、12人にB型肝炎の接種をして、更に混合を12人に対して行ったんですか？12人に対して間違っただけで、混合ワクチンを更に12人に対しても、同じもの…？

子ども若者課長：

はい、間違っただけで接種をした12名の方々に、同時接種でも可能なんだけど、ということを確認いたしました。

記者：

そして12人打ってるわけですね？

子ども若者課長：

いいえ、そのうち6名です。

記者：

この間違っただけで打たれた12人なんですけれども、B型肝炎にかかる可能性もあるんですか？

子ども若者課長：

今のところ、ドクターのほうにはそういった可能性は低いだろうと言われておりますけれども、

やはり今後、経過というかそういったところ是对応が必要かなと思っておりますが、基本的にまずドクターのほうからその辺りを説明をしていくために今回受診をしていただきましたし、安心をしてお帰りいただきました。

記者：

いつまで経過を見るんですか？

子ども若者課長：

いつまでというところは特に定めてはおりませんが、今回接種した方々につきましては、この後2種混合を打ってない方もいらっしゃいますので、そういった方々が適切な時期に2種混合を接種できるように、ご案内をしてまいりたいと思っております。

記者：

B型肝炎にかかる可能性はかなり低いということですか？

つまり健康被害が出るか出ないかってのは、いつまでにどんな時期のどうやって確認していくんですか？

子ども若者課長：

はい、基本的に主な副作用というところと言われてますけども、今回の診察時にはその症状は認められませんでした。ただやっぱりこの後、そういった副作用があったというようなことであれば、それは今回の接種が原因かどうか、というところは医師のご判断もいただかなければいけないと思いますので、いつまでというようなところの期間については今申し上げられるところはありません。

記者：

わかりました。

記者：

父兄とその子供の健康被害はもちろんこの後もずっとフォローしていかなくちゃならないけど、その精神的な面ってところはどうしていく？

子ども若者課長：

今回、佐渡総合病院で受診をしていただいた母子につきましては、わたくしのほうで小児科のほうにお伺いをいたしました。その際に今回の原因についても確認不足であったということもご説明をさせていただきましたし、その現場での対応ですね、やはりなかなか具体的な説明がなかったということで不安があったというようなことがございましたので、その辺りについて私のほうで、病院の中でしたけれどもご説明をさせていただきましたし、また今回そういういったことがあり、なかなか市のほうに発言できない部分があったとすれば、後程でも結構なのでお気づきの点があればなんなりと申し付けさせていただきたいということをご説明させていただきたいと思います。

記者：

じゃあ12人全員の子どもを親はそれで納得したんですか？

子ども若者課長：

あの、12名のうち10名だけが今回佐渡病院の受診しておりますので、残りの2名の方については本日のところでは私はまだお会いをできておりません。ですが納得という意味ではやはりご指摘をいただいた部分もありました。本来あってはいけないことですよね、ということで当然のご指摘だと承っておりますし、私どもの方でも今後改善をしてまいりたいというところでお詫びをし、気を付けていただきたいということで言葉をいただきましたので、それを反省として、明日からの対応についてはきちっとしたものにしていきたいというふうに思っております。

記者：

6年生だという理解でいいですか？

子ども若者課長：

はい。

記者：

B型肝炎のワクチンですけれども去年から義務化されてますけれども、現時点で小学校6年生に対

しては義務のワクチンということなんですか？それとも任意で接種すべきワクチンなんですか？

市民福祉部長：

定期接種についてでございますがB型肝炎ワクチンにつきましては0歳、生後2か月から9か月の至るまでの間に接種をするということになってございます。それ以降の接種はございません。ですので一度生まれた時にお打ちになっておるといふことで考えてます。この後本日打たれた方等が接種を改めて受けるということとはB型肝炎についてはないです。

記者：

ちょっとかぶりなんですけどももう一度、今日の接種の予定だったのは二種混合ワクチンとB型肝炎ワクチン同時接種を今日同時にやる予定だったんですか？それで2つ置いてあったんですか？

子ども若者課長：

いいえ、今日接種の予定は二種混合ワクチンのみです。

記者：

…だったのをB型肝炎ワクチンを間違えて搬入しちゃったということ？

子ども若者課長：

そうです。

記者：

今後同じような間違いのないような対策っていうのはどういうふうな対策を考えてるんですか？

子ども若者課長：

わたくしどもの方では、まずはもう今回確認不足というところが絶対的なところでございます。複数で搬出したにも関わらず、思い込みによる確認ができていなかったというところなので、

確認体制は必ずとるところは徹底してまいります。その他保管をする保管庫ですけれども、やはり一目でわかるような体制になっておりませんでしたので、そこはわかりやすく、棚が数段ございますけれども、このワクチンはここ、というような形での表示をわかりやすくする、簡単なことだとは思いますが今までそれができていなかったもので、その徹底をして接種の間違いを防ぎたいというふうに思っております。

記者：

すいません、そんな簡単に間違えちゃうんですか。わかりにくいんですか？

子ども若者課長：

本来、わかりにくいというか、必ず搬出をする際に確認をすべきところを今回怠ったわけです。

記者：

なんか貼ってあるわけですか？

子ども若者課長：

箱に必ず表示をしてございます。

市民福祉部長：

これが今日の箱でございますが表示があるわけです。こういうふうに。これでございます。ですので、ここの確認を怠ったというのは大きいんですけれども、本人たちの話ですとここに有効期限がございます。ですのでこればかり気にしてた、ということで誤ってしまったということです。全体をこう見ながらやるべきだったと思いますけれども、この有効期限をまず頭にしてしまったものだから、確認を怠ったというようなところでございます。

記者：

そっちが混合ワクチンなんですか？

市民福祉部長：

はい、こちらのほうが混合ワクチンです。

記者：

箱が違うからわかんなかったんですかね？

市民福祉部長：

完全な思い込みです。

記者：

これを間違えちゃうんですか、じゃあもっと大きな箱に入ってるんですか？

子ども若者課長：

いえ、5箱が1つのもとになっていますので、そこから出していたということです。ただ箱にはこれだけの表示がございますので。

記者：

ロットの大きな箱に書いてないの？

市民福祉部長：

これがですね、こういう5本組で、それがナイロンの袋に入れられておりました。本人たちはこういう体制であったのではなくてここの部分をとにかく見えるようにしておったものですか、ここの部分だけ気をとられておったと。

記者：

それが5本入ってるのを蓋して持っていったということですね。それでもう20人分ぐらいは間に合うものですか？

市民福祉部長：

その予定で持って行ったということです。

記者：



それで2人分足りないからということで元に戻ったら気付いたんですね。

記者：

箱から支所に、その場所まで持ってくわけですよね。箱から出すわけですよね、当然ワクチンを。それで箱を見ない…っていうか色違くないですか。

市民福祉部長：

こればかりは本当に、本日そういうふうを確認しております。薬わりと飲む時に有効期限を気にしますけども、そこを本当にじゃあ打っていいものかどうかというのを、まず気を付けたってということでそこについては全く我々申し開きはできません。

記者：

今回のミス、かなり基本的な確認事項の取り違えミスだったように思うんですけども、担当された保健師さん、これ経験の浅い方だったんでしょうか？

市民福祉部長：

いえ、担当保健師がですね、相川地区のものにつきましては既に20年近くのキャリア、中堅の保健師であります。それから、あと1名の保健師につきましては採用から数年経ってございますけども、そういう意味では経験が全くないというものではなかったです。

記者：

同様の確認ミス、同様のこの様な予防接種の事故は過去にも佐渡市で起きていたんでしょうか？

市民福祉部長：

私が合併以来では、聞いてございません。

記者：

すいません、まず本庁舎から持ち出して間違えてそれで相川支所に保管して、それも間違えた。ということなんですね。責任はだから本庁舎の保健師と支所の保健師、ということになる、この2人ですか？

記者：

ちょっともう一回更に言うと、元々その本庁にあったんですね？二つの薬は。それを相川支所に一回持ってった。両方とも？

市民福祉部長：

いえ。片方だけです。今日使う分を、持って行ったということです。

記者：

それを持って行ったのはいつなんですか？

市民福祉部長：

22日の、昨日の朝です。

記者：

昨日持ってきて今日だったんですね。

記者：

もうその時に間違っってB型肝炎を持って行ってしまった。で、それを相川支所の冷蔵庫に保管して、今日の朝持ってくる時にも間違っって持ってきた。単なる賞味期限だけ見て持ってきちゃった。

記者：

それは別の保健師さんですか、同じ保健師ですか。本庁から持ち出した保健師と、相川の支所から持ち出した保健師は？

市民福祉部長：

あのですね、相川の保健師は、これは同一でございます。ですので、もう間違いがないと思っていたものですから、かなり確認を怠ったと本人も申しております。

記者：

最初に持ち出した2人っていうのは？

市民福祉部長：

1人が相川で1人は本庁です。

記者：

普通病院だと二重チェックしますよね。常識ですよね。今日あのたまたまその学校の近くの施設のところに看護師がいたんですよね。こんなことあり得ない。

それでね、複数の児童を抱えてるその小学校では、市から5時くらいに連絡がきたと。ところが学校長も4時より前にわかってる。第一報をくれるべきなのではないか。詳細は、後から調べて学校に連絡しますと。そういうことがないと我々父兄も安心できないし、学校長も安心できない。それどう思いますか。

市民福祉部長：

今回相川地区でございました。一学校区の方々ばかりではなかったというのがありまして、確かにその連絡確認っていうのは忘れてたことも反省点でございます。確かにそのところについては申し開きのできる部分ではありません。誠に申し訳ありませんでした。

記者：

今日は相川地区の小学校？相川小学校？

子ども若者課長：

今回ですね、相川地区で対象としてやりましたけれども、他の地区で受けなかった子どもさんたちが今回の日程のところに入ってきていたということもございますので、対象者全てが相川地区の子どもさんではなかったということです。

記者：

いくつの小学校の児童だったんですか？

子ども若者課長：

小学校まではちょっと確認しておりませんが、接種した児童のうち相川地区の児童が10名、それから金井地区の児童が1名、両津地区の児童が1名の計12名です。金井と両津が1名ず

つ、他10名は相川地区でした。

記者：

学校長がね、名前も言ってきたっていうんだけど、市がわかってるわけじゃないですか。児童の名前もわからないなんて確認しないとおかしいじゃないですか。

市民福祉部長：

全くその通りでして我々そこまで考えが及ばなかったのも確かでございます。その点は本当に反省しております。

記者：

とにかく、プロじゃないですよ。市民の信頼を持ってその責任をもってやらなきゃならない市の職員じゃないですか。それがなんか、普通考えられないようなミスを犯すなんてのは、どういう教育してんですか。あってはならないことじゃないですか。

市民福祉部長：

全く本当にその通りでありまして、やはりあの本人たちですね、慢心があったといわれてるその部分。やっぱりそのまずは、そのワクチンがどうかってことは基本的に確認をすべきことを怠っておったのは、本当に遺憾ですね。でありますので過去2名で確認をしたと言っておりますけれども、その持ち出しの際に何故2名でやるかっていうことを、基本的にわかっていなかった、という部分は本当に反省をしております、そこについては今指示をしてきたところでございます。今後本当にこういうことのないようにしていかなければ、ご指摘の通り信頼が得られない。私も本当に反省しております。

記者：

看護師さんもチェックできなかった？

子ども若者課長：

看護師につきましても、シリンジ注入の際にですね、担当保健師のほうから確認をすると、保健師が持ち込んだワクチンなので確認はしなかったというふう聞いております。

記者：

それはチェックしなくていいものなんですか？

子ども若者課長：

いいえ、本来であればきちっとチェックをするところの体制、接種前ですのでそこは必要あるというふうに思っておりますので、そこは今後の接種については当然確認をしていくべきところだということは指示をいたしました。

記者：

あの、こういうことひっくるめてね、副市長さんが色んな支所の方へ回って指導してるわけなはずなんですよ。だからそんなこと起こるのが不思議。

記者：

すいません基本的なことで申し訳ないんですけど、足りなくなったっていう意味がちょっとわかりにくいんですけどこの日は48人を対象にしてたってことですか。

記者：

今貰ったペーパーによると合計48人となっておりますけど。

子ども若者課長：

ですが、当日の来場は27名です。

記者：

足りなくなったってことはどういうことですか。

どういう経過で足りなくなった。

子ども若者課長：

こちらなんです、一箱が0.5mlのものになっております。本日接種したのは一人に対して0.1mlの接種をいたしましたので、5本を相川支所から会場に持ち込んでおります。1本で5人、で $5 \times 5 = 25$ ということで25人分は当日確保しておったんですが、相川支所保管のもう1本持ってきてあと2人分ということで追加をする必要があったので相川支所へ戻っ

た際に、、、

記者：

保健師 1 人ですか？

子ども若者課長：

そうです。B型肝炎のワクチンであることを確認したということです。

記者：

その時に、「あっ」と気づいた。

子ども若者課長：

そうです。

記者：

その時に途中から始まっていて、保健師は戻って行って、10人目でやめましょうってのはどうなったのですか。

子ども若者課長：

誤りに気づきましたので、保健師のほうが会場のほうの医師にお話しをし、接種を中断をいたしました。

記者：

ただ問題はないので同時接種できますよと、いうふうになった。同時接種は問題ないから。

子ども若者課長：

そうですね、先ほど部長のほうも申し上げましたが、昨年10月から0歳児に対しての同時接種というところがございます。なので医師のほうからはB型肝炎のワクチンと、今回の二混を打ち、同時接種しても問題ないので二混ワクチンをその対象者にも接種してよろしいかというところの判断を当課に仰がれました。で、現状二混ワクチンとしての接種の会場でしたので私

どもの方で医師のほうの判断があれば接種しても問題ないだろうということで接種の指示を出しました。で、医師のほうからそういったことがあるので12名のうちに保護者に説明をし、うち6名の児童の保護者から同意を得て本日B型ワクチンと二混ワクチンを両方接種したと。

子ども若者課長：

つまり、B型ワクチンは接種したけど、更にそこに二種混合ワクチンを打っても問題はないと。逆に言うと、他の人にわざわざB型肝炎を接種することはないっていうか、危ないってことですか？

子ども若者課長：

あの、今の段階ではもう0歳児から2回同時接種ということになっておりますので、佐渡市のほうでは今回の二混ワクチンのときにB型を誤って打ってしまったんだけど、同時接種でも問題ないので二混希望する方については接種をしたほうがいいんじゃないかということをお願いしまして、、、

記者：

それは12人に対して？

子ども若者課長：

そうです、12名に対してご説明をし、6名から了解を得て接種をしたということになっております。

記者：

ということはですね、0歳接種から始まっているから、その小学校6年生たちは誰もB型肝炎今まで予防接種受けたことはないっていう理解でいいですか。それか、あまり立て続けにやったらよくないでしょうから、間違って2回入れちゃったら。そういうことはないのか。

市民福祉部長：

B型肝炎については、28年10月1日から法制度が施行されました。28年4月1日生まれ以降の方が接種対象でございますので、今回の誤って打ったという方についてはですね、今ま

で接種をしたということではないです。

記者：

理屈としての何か問題は今のところ考えられないということでもいいですか。または人それぞれ色んな…

子ども若者課長：

健康被害とか副作用については、色々事例があるようでございますけれども、今回誤って接種をした12名のうち10名、本日小児科受診していただきましたが、その様な副作用の症状は認められなかったということになります。

記者：

あとの2人は大丈夫だからっつて受けなかった？

子ども若者課長：

そうです。

記者：

ああそう、大丈夫なの？って程度の感覚ですか。それでいいんですか。

子ども若者課長：

当日会場において、12名の方を対象に、医師のほうから同時接種であっても問題ないというご説明をさせていただきました。なのでその2名については佐渡病院の受診についてはということを受けられなかったというふうに残してあります。

記者：

B型肝炎ってのはなかなかね、この後に出てくるのは間違いないんですよ。それとその父兄も先ほどの話になりましたけども、本人もね、心のケアがいるんですよ。混乱してる状況を目の前で見てるわけだし、医者は動揺してるのを見て、これは大きくなってもずっとね、心に焼きつくんですよ。その辺りはどういうケアをしていきますか。



子ども若者課長：

現段階では、今日佐渡病院に受診していただきました保護者と児童については私のほうから原因を含め、お詫びを申し上げましたけれども、今後についてはやはりそういったご心配があればいつでもお申し付けいただきたいということで、今日話してまいりました。で、今後先ほどもご質問ございましたが、いつまでじゃあ経過観察なのかというようなところについては、今の現段階でちょっと申しあげられるところはございません。またこの後対策としても、どういったことがよろしいのかというのは考えていく必要があるかもしれません。

記者：

それちょっと甘いと思うんですよね。やはりこれだけ明らかになってから時間経ってるんだからね。新大の医療に聞くとかですね、色んなルートあるはずなんですよ。そのためのこれ会見じゃないんですか。今の時点では大丈夫だからということではないでしょう。そしたらその残りの2人もそうですよ。あなたがたそのままにしていんだというのはあなたがたサイドの考えていることで、父兄や親せきなどでは大変ですよこれから。と思いますよね。

市民福祉部長：

おっしゃること、重々私も理解できますし、そういう意味でですね、やはり現場で打たれた先生の意見だけではわたくしどももご父兄も不安であります。ですので佐渡総合病院のほうに我々連絡をしまして、受診について受け入れていただけるということで佐渡病院の小児科の先生からその辺りについても、本日受診した方々にご説明をさせていただいております。我々はこの件につきまして県に報告をしております。今後ですね、その辺り指示も仰ぎながら当然対応していくつもりでございます。これはあつてはならないことで気を付ける以上に、我々も経過観察も含めて、真摯に対応していく必要もあると思っております。

記者：

聞いているのはですね、市の市立病院の関係者にね、この状態を明らかにしてそしてこういうことのないように指示をしたかどうかということを知りたいんですよね。徹底したのかどうかということ。佐渡市立病院で。佐渡病院でそういうことないですからね。

市民福祉部長：

申し訳ございません。あの、佐渡総合病院のほうは理解を得てまいりましたけれども佐渡市立病院についてもですね、このあと情報を提供して、そんなことのないようにしていきたいと思っております。まだ提供してございません。

記者：

それとあの、学校関係者が動揺してるんですね。かなり動揺してますよ。その辺りもフォローしなきゃならないんじゃないですか。

市民福祉部長：

今伺いましたもの、我々教育委員会のほうにも話をして、そこを通じてお話をしていくようにします。

記者：

すいません、改めて市長としてもう一言今回のことについて

市長：

ひとつ、報告受けましたのは、3回確認する場面があったわけです。最初、本庁から相川支所に運ぶ時の冷蔵庫から持ち出すタイミングが一回。で、相川支所から開発センターの接種の場所に持ち出すときにも確認できるわけです。更にはワクチンをシリンジに吸い上げるときにも当然箱は見えるわけですから、この3回確認の場面があった中でそこを思い込みで間違えたまま、しかも複数の保健師さんが間違えたままいってしまうというのは、これは聞いてちょっとびっくりしているのが本当のところでございますし、逆に言うと簡単な感覚で慣れがそういう形になったのかそこは私のほうでも今判断できる状況ではございませんが、ただ一個一個先ほど課長が言いましたように保管の冷蔵庫の段の中でしっかりはっきりわかるようなラベルとかも表示して保管するとかですね、あと持ち出す時の台帳への記入についてももっと詳細な、薬の名称から何から細かく記入するような形を徹底させていくしかないというふうに思っております。とにかく複数、2人いて見逃してしまうっていうこと事態がちょっと信じられない状況ではございますが、とにかくその経過地点ごと、搬入地点ごとに詳細な台帳記入等々を徹底して、細かいところまで記入欄を作るとかいうところで今後改善していくしかないと思っております。

記者：

保健師に任せておいたってことも間違いでしょ。第三者も立会うべきじゃないですか。そういうものを持ち出すときはね。保健師とその担当職員の二重確認するのは必要だよ。

子ども若者課長：

そちらについては、やはり複数でチェックしても今回のような件が起こってしまったということころを反省点としまして、健康推進室とそれとわたくしども子ども若者課のほうで、体制的にチェック機能が働くような体制を考えてまいりたいと思います。

記者：

今回の担当保健師と、あと担当課の皆さん、どういう責任を今後取られる予定ですか。

市民福祉部長：

まだ今ほど申し上げた部分が足りない事項が、聞き漏らしておる事項があると思います。そこを十分調査をしてですね、今後起こさないというのはもちろん、当然必要なことではあります。その辺りについて十分調査をしてからのことで、相談しながらその辺りは対応していきたいと思います。

記者：

さっき市長が慣れって言ったけど、慣れじゃないですよこんなもん、慣れちゃならないんでプロなんだから。毎回嚴重にチェックして持ち出すのは当たり前。それを慣れたからこういうことになったのはおかしい。

市長：

慣れだったろうと私断定してない。慣れだったのかもしれませんが、と先ほども言わせていただいたんで、その辺のところは…

記者：

ど素人だったんですか、ど素人。

市長：

ど素人じゃなくて保健師さんとしてキャリアを積んでる方々で、そこで素人ではないわけです。保健師さんの…

記者：

そんなことやる人はもう素人ですよ。プロじゃないですよ。

市長：

保健師さん同士が複数で一応チェックする体制の中でこういうことが起きてしまったわけですから、保健師さん同士で複数でやって尚且つどういう方法をとれば、そういう今回の件のようなことが再発しないか、というところの運用についてはもう一回しっかり組み立て直して100%こうやれば大丈夫だというものにしなきゃいけないと思いますが、保健師さんというものは中堅の年数もキャリアもやってる保健師さんでございますので、今回犯してしまったミスは素人的な部分と言われればもうその通りでございますけども、担当してた保健師さんそのものは資格のない素人とかいうことではございませんのでそこだけご理解ください。

記者：

信頼できないですね、そういう人はね。これで健康被害なかったからいいんだけどもしなんか危険な物であった場合に、発生してから報道に発表がなんでこんなに遅いんでしょうか。もっと報道に早く連絡して公表すべきじゃないですか。そうすれば連絡取れない人でもニュース見て、「あ、私じゃないか」とかって思うわけでしょう。これなんでこんな遅い発表になったんでしょうか。

市民福祉部長：

確かに遅いという指摘されてもしょうがないと思いますが、我々としてですね、病院の受診の手配、それから当然我々の犯したミスでございますので、受診をするについてもこちらから書類等を用意するというような手配をしてございました。そこがまず我々としては第一にやるべきことだろうと考えておったものでございます。確かにあの、報道の皆さんにお知らせするのが遅れた、というのは反省点ではございますが、我々もそこを第一に考えてまず対応してお

たということでございます。

記者：

不思議なんですよ、小学校長は細かい情報を欲しかったと言ってるんですよ。父兄から聞かれても言えなかった。今と全然違うじゃないですか。学校には速やかに、すぐ連絡すべきだったんじゃないですか。速やかですよ速やかに、こういうのってのは。第一報がありました、細かくはあとからです。それが無いから、学校長動揺したの。父兄も動揺したの。ということも今質問したんですけど。

市民福祉部長：

申し訳ありません、本当に我々気が回っていなかったという面でございます。そこも含めて我々速やかに、速やかにというか教育委員会のほうを通じてやっていきますんで今後の反省点として十分それをいかしていきます。申し訳ありません。

記者：

話戻りますけども、対象人数48人いらっやって、普通48人分のワクチンを用意するものじゃないんですか。不足ワクチンを取りに行くってこと自体がちょっとよくわからないんですけど。相川支所の、そこで気づいたわけですよ。不足ワクチンを取りに相川支所にきたと書いてありますけど。

記者：

あれ？28人というのは、この日。

記者：

その、48人のうち27人が来たってことなんですよ。つまりだから48人は受ける可能性があったってことですよ。つまり48人分のワクチンを用意すべきですよ。なのにもかかわらず、相川支所に不足ワクチンを取りに行くってのはどういうことなんでしょうか。

子ども若者課長：

当日ですね、一応対象者を他の地区も含めて概ね50人分が必要であろうということで本庁から10箱持って行きました。で、実際じゃあ何人来るかっていうところは、大体該当地区でわかっておりましたので5箱で足りるか、というところでまずはセンターのほうに5箱を搬入

したというところでございます。

記者：

5箱っていうのは何人分なんですか。

子ども若者課長：

25人分です。で、残りの5箱については相川支所の冷蔵庫にまずは保管をしてあった。で、当日他地区からも来られたということもあり27人でしたので、若干足りないということで支所の冷蔵庫に取りに戻ったという事になります。

記者：

元々でも相川地区の対象人数は38人ですけども25人分しかないってどういうことなんでしょう。

子ども若者課長：

センターに持ち込んだのは25人分5パックですけども、相川支所には10パック用意してございましたので、当日のセンターの受付状況を見た中で、不足分を取りに戻ったという事です。

記者：

その保健師と医師は何歳ですか。

市民福祉部長：

保健師についてはちょっと確認してございませんが、支所の担当保健師については40代。

記者：

保健師40。

記者：

本庁舎の保健師が…

市民福祉部長：

相川支所の保健師が40代。

記者：

本庁は？

市民福祉部長：

あのですね、えっとですね、今お尋ねなのは本庁舎のほうのことですか。20代です。

記者：

20代の人と40代の人か…

市民福祉部長：

あいかわ開発総合センターのほうの現場のほうには相川支所のあと1人保健師がございます。問診等を担当しておりました。

記者：

また別の人だ

市民福祉部長：

はい、その者も行っておりました。ですので2人態勢です。

記者：

本庁舎から相川は2人でやってる。

市民福祉部長：

受け渡しは、本庁舎に置いてありましたので、前日の22日に受け渡ししたのは20代と相川支所の40代の保健師です。

記者：

20代の保健師が40代の保健師に渡した。

市民福祉部長：

で、相川支所の現場のほうは接種担当の、持ち出しをした保健師。それと、あと1名の保健師が現場対応にあたっておりました。接種の会場にはおりました。

記者：

保健師3人ですね。

市民福祉部長：

今日は2人です。

記者：

前日も2人。

市民福祉部長：

いや前日はあくまでも、そのワクチンを受け渡す際が20代と40代の保健師。

記者：

つまりその2人ともまず間違えたんですか。

市民福祉部長：

はい、そうです。

記者：

今日も受け取った保健師ともう1人の保健師2人とも間違えた。

市民福祉部長：

いえ、あのあと1人の保健師のほうはワクチンの関係には携わっておりません。

記者：



じゃあ受け取った保健師が間違ってる。

市民福祉部長：

思い込んでいたものですから。

記者：

それを在宅看護師に渡して、在宅看護師も見落とししたと。で、医者は入ってるものそのまま打ったと。お医者さんは知らないと。

在宅看護師ってなんですか、すいません。病院の看護師じゃないんですか。

市民福祉部長：

病院の看護師ではなくて、こちらからお願いをしてその時のお手伝い、看護師免許を所有している方です。

記者：

その方の年齢と医師の年齢聞いてるんですか。

市民福祉部長：

それについては今調べてございません。今確認をさせていただきます。申し訳ございません。

記者：

注射した医師も、わからなかったってことですか。気が付かなかった、わからなかった。

市民福祉部長：

注射した医師は、接種の際に、いわゆる注射器に入ったものを渡されますのでそれはそのまま打たれます。

記者：

普通医師が気付くじゃないですかどこの医師だって。自分が打つものだから。

市民福祉部長：

まだその辺りの確認っていうのは、いわゆるこれが注射器だとすると渡されたものを打つという  
ことで確認していなかったということです。

記者：

3人はそれぞれどんなこと言ってるんですか。これが発覚して。医師も含めて。

市民福祉部長：

医師については、渡されたものを打ったということで格段確認をしてございませんが、先ほどの  
保健師の確認は、一番にしたのは、どうして間違えたんだ、ということではありますが、この  
場合のここのいわゆる…

記者：

いやいや詫びを、どんな詫びの言葉を言ったかってこと

市民福祉部長：

それは確認不足だったということで

記者：

確認不足だったと、申し訳ないと言わないの？

市民福祉部長：

いやいやいや、大変申し訳なかったということは言っております。

記者：

正確に言ってください。

市民福祉部長：

確認不足で大変申し訳なかったということです。

記者：

それは誰に対して申し訳ないんですか。

市民福祉部長：

当然あの場でも現場におりましたんで、言ってございますし、我々に対しても確認不足で本当に重大なミスを申し訳ありませんでした、というお話であります。

記者：

すいません資料、さっきの話なんですけどこの資料に23日11時半、会場準備保健師2名がワクチンを確認って書いてあるんですけど、さっき今1人って言ってましたよね。2人の保健師が、ワクチンを今日の11時半に確認したって書いてある。台帳に記入。

市民福祉部長：

これについてはですね、準備にいておる保健師、といわゆる受け渡しをした保健師でございますけども…

記者：

本庁舎の

市民福祉部長：

相川支所から2人。

記者：

さっき、ん？2人でワクチンを…

市民福祉部長：

2人で行っておりますが、ワクチンについてはですね…

記者：

じゃあこの資料がおかしい。

市民福祉部長：

私の方はその様な報告を受けてますけど。

記者：

すいません、この資料はなんなんだ。

市民福祉部長：

2名がワクチン確認したと。

記者：

確認したの1人なんじゃないですか。

子ども若者課長：

あの、これについては相川支所の担当保健師が会場準備のために、相川支所の保管庫からワクチンを取り出しました。で、会場にいてそのワクチンを2人の保健師がワクチンを「あるね」ということで確認をしたということで聞いてます。

記者：

当然その箱ですよ。

子ども若者課長：

そうです。

記者：

当然そこで見誤ってるわけですよ。ということは、2人の保健師も間違えたってことですよ。

子ども若者課長：

間違えたっていうか先ほどから部長申し上げておりますが、その思い込みというところで、こ

れが二混のワクチンだというふうに思い込んでおったと。

記者：

だからさっきの部長の説明とちょっと整合性が…。もう一回。

市民福祉部長：

そういう意味できちんとあと1名の方が確認したかという、そこも…

記者：

この資料見ると2人でワクチンを確認して台帳に記入したと書いてありますよね。それも2人とも見誤ったよねっていう、そういうことでいいですか。

市民福祉部長：

結果的にそうなります。わかりましたその通りです。

記者：

A B Cで言うとね、22日AとBの保健師が持って行って、今日はAとCが要するにワクチンを確認したっていうことですね。

市民福祉部長：

現場におりました。

記者：

ということはつまり3人の保健師がいて、ってことですね。それで更に言うと在宅看護師がワクチンをシリンジに吸い上げるっていうことは、この在宅看護師さえも見逃してるわけですよね。つまり4人が関与してるってことでいいですよ。今のこの説明だと。

市民福祉部長：

4人ってことになりますね。

記者：

要するに3人いたんですね、保健師は。

子ども若者課長：

2人です。現場には保健師は2人です。

記者：

現場にはね。本庁舎の人はいない。

市民福祉部長：

ですので2人と、在宅の看護師が接種作業にあたっておりましたが、1人の保健師についてはワクチンに直接担当はしてなくて、問診のほうの分を担当していたと。

記者：

でも2人が確認って書いてあるんだ。

市民福祉部長：

すいません、これについてはちょっと私の勘違いもありました。ワクチンが思い込みで両方もやっておったもんですから、両方っていうか1人が担当して持ってきて置いてあるのでワクチンがある、ということを確認したと。あることを確認したということになります。

記者：

もう1人のは何歳くらいなの。

市民福祉部長：

50代です。先ほどの医師と看護師につきましてご報告させていただきますと、看護師については60代、それから医師についても50代ということです。

記者：

昨日本庁から持って行ったのは1人なんですよ。渡したのは2人で、持って行ったのは相川

の保健師ですよ。1人で持って行った。

記者：

今日は20代と50代の保健師。

市民福祉部長：

いや今日は40代と50代の保健師です。

失礼しました本庁の担当保健師30代です。すいません私ちょっと勘違いしておりました。

記者：

その医師ってのは市立の相川病院の人なんですか？

市民福祉部長：

いえ、市立相川病院の所属ではありません。

記者：

具体的にどういうことですか。

市民福祉部長：

具体的にというかどうか…

記者：

市が委託してるのか、それとも病院のほうに委託してるのか。

市民福祉部長：

いや、市のほうでその時に来ていただけるお医者さんということでお願いをした。

記者：

個人医院ってことですかね。

市民福祉部長：

はい。

記者：

もう一回報道に発表が遅れた理由を聞かせてもらっていいですか。

市民福祉部長：

はい、先ほども申し上げましたが、まずご本人様たちからまずは佐渡総合病院の…

記者：

時間系列で説明してもらえますか。発生が？

市民福祉部長：

配ってある時系列の通りということですので、本日の時系列でよろしいでしょうか。お手元の資料ご覧いただきながらですけれども、8月23日11時30分会場準備、それは相川…

記者：

いやいやいや発見してからの時系列が知りたいんで

市民福祉部長：

本日の1時から接種しております。で、13時40分に保健師が間違いに、誤りに気づきまして接種の中断をしております。その後15時45分に本庁に連絡をし、子ども若者課のほうでこれまでの経緯等を二種混合ワクチンを届けるので、それを同意を得た保護者に接種をするともに、残りの方にも接種していただくということで進めていくということにいたしました。で14時20分に接種を再開しております。あの13時45分のところで今後の対応につきまして市長交え我々相談してございます。その結果やはり不安を解消するのが一番だろうというところからまず佐渡総合病院等受診ができるかそこを確認をしておりました。でその後概ね16時半過ぎだったと思いますが受診ができるということがわかりましたので、まず…  
すいません16時過ぎに受診ができるということがわかりました。それでまず車の手配をしました。で、車の手配については本庁舎の方から相川地区のほうに車を出して、乗っていただく、あるいはその意向を相川支所のほうから手分けをして、連絡をして、受診について勧奨してご



ざいます。で、診療が始まったのが概ね17時くらいです。診療が全て終わったのが18時半過ぎであります。で、我々の中でやはり緊急記者会見が必要であろうということで皆様方のところにFAXを入れてございますけども、それについては17時過ぎだったと思います。

記者：

先程の県に連絡っていうのは何時何分ころに県のどこへかけたんですか。

子ども若者課長：

県のほうには概ね15時30分過ぎに、本日県のほうと打ち合わせをする予定にしておりましたので保健所の担当課長のほうが本庁のほうへ来庁しておりました。そこでまず一報を口頭で報告させていただきました。でその上で県の健康対策課等への対応をご指示いただきまして、それから保健所のほうから国へ報告の準備があるので、資料を提出してもらいたいというようなやり取りを現在も続けております。

記者：

大変なことじゃないですか。皆さん考えている以上な。

市民福祉部長：

ですので我々も県等に報告したのは当然報告すべき事項でありますし、色々な意味で今後のご指示いただきたいということで県に連絡させていただきました。

今ほど子ども若者課長が言いました通り担当課長が市役所のほうに見えておりましたのでご指示を仰ぐということでございます。

記者：

ちなみに足りなくなって行った保健師の人はいくつの人ですか。40代、50代。

市民福祉部長：

取りに行った保健師は40代。

記者：

じゃあ自分が自分の間違いに気づいた。

記者：

ここは再発防止ですよ。なんだかんだ言ってもね、それが一番のところだからね。

市民福祉部長：

ご指摘をいただいている関係者にご説明についても行っていきます。

※記者会見ではB型肝炎ワクチンを接種した12名の児童うち、2種混合ワクチンを同時接種した児童数を6名と説明しましたが、8月25日に2種混合ワクチンを同時接種した児童数は5名であったと訂正しています。